

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390600229		
法人名	第一商事株式会社		
事業所名	グループホームやちだもの家北上(1F)		
所在地	岩手県北上市立花17地割1-2		
自己評価作成日	平成27年 2月28日	評価結果市町村受理日	平成27年5月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigvosvoCd=0390600229-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内		
訪問調査日	平成27年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・「つつがない毎日の提供」をモットーに、利用者・家族個々がその人らしく生活が送っていけるよう、自然体でお互いが向かい合えるよう、気張らない姿勢でサービス提供を行うよう心掛けています</p> <p>・岩手県立大学と共同で地域課題研究に取り組むことにより、第三者の目を交えながら、地域における自事業所のあり方について質の良い検証を行うことができ、今後の地域の活性化につなげられることを期待しています</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「つつがない毎日の提供」を事業所母体法人の理念として策定している。事業所独自の目標を「安真感(あんしんかん)」とし、職員が全てをやるのではなく、利用者(と職員)との距離感を大切にしながら、利用者の主体性を尊重しつつ、自立を見守るケアを共有し、日々取り組んでいる。利用者が転倒し骨折した事故が、事業所の玄関先と、戸外を歩いている最中に、2件あったことから、利用者の安全を確保しつつ自由な暮らしを支援するための改善策について家族と相談のうえ、事業所内で話し合った。その結果、「付き添い見守りを徹底すること」「手すりを設置する等居住環境を改善をすること」として取り組んでいる。利用者の意向を尊重した姿勢で解決を目指している等、身体拘束をしないケアに積極的に取り組んでいる。岩手県立大学と共同で内陸被災者支援を目的とした地域課題研究に取り組んでいる。事業所の役割は、主に「場所の提供」と「人的な交流への関わり」と考えており、今度の展開が注目される点である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「つつがない毎日の提供」を理念に、その人がその人らしい生活が送れるよう、利用者・家族個々の要望を取り入れながら、サービスが押し付けにならないよう心掛けている。	「やちだもの家」の母体法人として、共通理念「つつがない毎日の提供」を策定している。その理念を初任者研修、ユニット及び全体会議で共有し、意識付けをしている。利用者とは身構えない関係づくりをしてケアに当たるといった考えから、職員は、普段着(私服)で勤務している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はないが、地域の防災訓練、地域の祭りに事業所の職員が参加している	事業所として地域自治会に加入し、会費を納入している。地域の行事や防災部会等に参加している。地域住民から借りた畑で、野菜栽培をしている。開設して間もない事業所ということもあり、事業所自体が、まだまだ地域に定着していない状況であることから、これからの展開が楽しみである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談や見学等あった場合に、認知症の対応について説明する機会はあるが、自発的に地域に向けて発信する機会は設けることができていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の頻度で開催しており、会議参加者から様々な意見を聞く仕組みをとることにより、地域での事業所の在り方や、サービスの在り方を学んでいる	運営推進会議は、年6回、2ヶ月ごとに開催している。事業所から報告を行い、その後に情報交換、参加者からの提案・意見をいただくようにしている。家族に対して参加していただくように案内しているが、欠席者が多い状況にある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業を行う上での疑問点や、制度上の解釈に迷う場合等、必要時は長寿介護課へ連絡し確認をとっている	平成27年3月に開催された「地域ケア会議」に参加し、情報交換を行っている。同月に市長寿介護課の実地指導を受けている。市担当者とは、生活保護に関すること等に関し、連絡・相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームにおいての身体拘束は無い。全職員に十分に注意しあい、気になることはユニット会議・全体会議で話し合っている	職員間で話し合っ、命令、否定口調の言葉がけにならないようにしている。職員の見守りの方法を徹底し、鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。また、利用者一人ひとりの用具や居住環境を点検する等して、利用者の安全の確保に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修は開催できていないが、日頃から利用者や家族からの意見を聞き、職員に虐待につながりそうな言動が無いかを確認している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実施できていない為、研修等の参加を考えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明も含め、家族の不安や要望について聞き取りを行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時意見の受け取りを行う体制はとっている他、家族や利用者の要望や意見は連絡ノートやヒヤリハット報告書で職員が共有できるようにしている	利用者の多くは、コミュニケーションが可能であり、数名の方が、「はい」「いいえ」の意思表示が可能となっている。利用料の支払いに来訪した家族と面会が出来ることから、誰とでも(職員に)家族が話しかけやすい雰囲気作りに留意している。利用者・家族の意見や要望事項は、ヒヤリハットノート、連絡ノートを活用し、職員間で申し送りをして共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の全体会議を開催し、職員から聞き取りを行いながらサービスに反映している	全体会議、ユニット会議、個人面談を行い、職員の意見を聞くようにしている。職員の意見や提案は、運営に取り入れている。例としては、風呂の入浴時間の設定、オムツ交換の仕方等についてである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の自己評価書の提出や雇用6か月時点での面談等により、職員とのこみゆみケーションに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJT並びにOFF-JTを積極的に活用し、職員個々のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	通常の地域連携会議等の出席に加え、初めての試みとして介護事業者3社による合同職員研修を企画し実施する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人から生活における要望を聞き取り、利用決定後の調査により更に詳細を確認している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者に家族から本人の状況や家族が困っていること、生活における要望を聞き取り、利用決定後の調査により更に詳細を確認している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前の聞き取りにより、必要なサービスの内容について家族、本人から希望を聞き、様々なサービスの提案を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所における食事の準備等、生活スタイルを本人の希望を聞きながら、生活を共有している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者本人に対し、事業者だけがサービスを提案するのではなく、家族も協力しながら本人の暮らしを支えていくものであることについて了承を得て、利用者と家族の関係が希薄にならないよう配慮している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	それまで通っていた病院や商店等、可能な限り馴染みの場所に行けるよう配慮している	利用者が行きつけの商店で買い物をしたり、昔から利用している理容店に出かけたりしており、一人ひとりの生活習慣を尊重している。利用者が、サークル仲間、親戚、近所の方と継続的な交流が出来るように、面会・年賀状のやり取り・電話等をする事を働きかけている。事業所に出張する美容院等を利用する利用者もあり、事業所内で済ませる傾向も見られる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立する可能性がある利用者については、職員が仲介し他者との関わりを設けることにより、互いの理解を深めてもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で利用が中止になった利用者についても、相談体制であることを説明し、家族から入院中の様子を聞き、今後のサービスにつなげられるよう支援している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中での利用者からの何気ない一言や、希望・要望を確実に受け取り、その後のサービスに反映するようにしている	利用者の入浴の際など、何気ない声がけをして、思いや意向の把握に努めている。本人に無断で(居室に)入室する他の利用者がいて困っており、このことを防止するために居室に鍵をかけたいとの要望に応じた事例がある。利用者の思いや意向を把握した時は、連絡ノートに記録を取り、職員全員で共有し、取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用前や利用開始時に家族や本人からの聞き取りを行い、その後サービスを利用していく中で、会話の中から情報の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子を家族やケアマネジャーとの情報交換により、利用者の過ごし方を確認している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が作成したケアプランを基にサービス提供を開始し、本人・家族・職員から状況確認したうえで修正を行っている	ケアマネジャーが介護計画を作成し、3ヶ月毎に見直しをしている。見直しをした介護計画は、電話で家族の了解を得て、家族が来訪した際に、署名をいただいている。アセスメントを含めユニット会議で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や職員の連絡ノートを使用し、その情報を基にサービスの修正に繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や利用者の要望の中で、既存のサービスでは対応できないようなものであっても、相談を重ねながら対応実現に向けて進めるよう心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	児童館の慰問やボランティアの受け入れを通して、利用者のつながりを支援し、触れ合う事で楽しみ提供や心身の安定を図っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス利用時に、現在利用している病院を継続して利用できる旨説明している。受診への可能な部分で職員も関わるようにし、病院と事業所の関係の構築に取り組んでいる	入居時に家族・利用者と話し合い、希望するかかりつけ医としている。かかりつけ医の変更を希望する時は、事業所の協力医師を提案している。受診や通院は、基本的には家族同行の受診となっているが、不可能な時には職員が代行するようにしている。緊急時の対応については、事前に話し合いをして家族の同意を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療面については、事業所の看護職員に報告・相談を行っており、統一した対応が取れるように心がけている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となってしまった場合、入院先へ管理者もしくは計画作成担当者が訪問を行い、本人の状態やその後の予定等病院関係者と情報交換を行うようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の在り方について現在のところ検討できていない	入居時には、看取りをしていないことや、事業所で出来ることと、出来ないことについて説明している。また、重度化した場合や終末期のあり方については、利用者の状況を見ながら、かかりつけ医や家族と相談して決めることにしている。特養ホームへの入所申込書を提出している利用者もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の初期対応方法についてマニュアルを整備し、消防署の方を招いてよりAEDの使用訓練を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行っており、地域にもAED設置の旨を伝えている	年2回、前期と後期に火災を想定した避難訓練を実施している。前期(4~5月)は、消防署立会いで実施し、後期(10~11月)は、同敷地内にあるサービス付き高齢者住宅と合同で夜間を想定した(当直者3名で、午前中に実施)避難訓練を実施している。災害発生時に備えて、食料や飲料水、暖房器具等を準備している。	地域住民との連携を図りながら、事業所の災害時の対策に関する理解をして頂き、協力体制を築いていくことが必要と思われる。まずは、避難訓練に地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練等を実施することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より利用者や家族に対し、失礼の無い対応を心掛けている。	利用者の心を傷つけてしまわないように、気づきを職員間で注意し合っている。事例を取り上げ、ユニット・全体会議で検討し、意識付けをしている。初任者が多い職員構成となっていることから、気づきをケア場面で伝えるようにしている。人格の尊重が対人援助の基本であることを徹底するため、内部研修を実施することが課題となっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や要望があった際は対応するように心掛け、極力実行できるように行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員からの声かけは促す程度を心掛け、決定はその人の意向に沿うように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類には制限を設けていない為、利用者・家族が好む服装をしてもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳や準備は、利用者の状態や意向を聞きながら手伝ってもらっている	副菜主菜は、配食サービス会社(業者)から購入したものを提供している。米飯と味噌汁は、事業所で準備している。たこ焼き等のおやつ、行事食(誕生会、正月等)は、事業所の厨房で利用者と一緒に作っている。居間兼食堂スペースには、献立を掲示して、食事を楽しむ工夫をしている。職員は、利用者が食事をしている間は、サポートに徹している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	厨房に調理の専門職がいる為、そこで食事についてはコントロールしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアを行うよう、介助や声かけを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄に対する要望を把握し、その利用者の状態に沿った排泄介助を提供している。	利用者全員がトイレで排泄が可能な状態である。排泄チェック表を使用し、利用者の状態に応じたトイレ誘導をする等の個別支援をしている。身体機能に応じてズボンの上げ下ろしに手を差し伸べたりして、トイレでの排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を作成し、個々の排泄状況を確認しており、利用者に声かけや軽運動の提供を行っている。また、水分補給の声かけや水分の提供をこまめに行い、便秘の予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度の予定日時を決めているが、その日の利用者の状態や要望に対して、入浴の時間を柔軟に対応するように心掛けている	事業所としての入浴日を週3回(月・水・金)、9時から午後3時と決めているが、本人の希望に合わせて入浴できるよう対応している。また、入浴を嫌がる利用者には、安心していただけるような声かけを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望や状況に合わせて昼寝を促したり、ホールにソファを設置し休んでもらえるよう環境を整えている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の薬の情報はケースファイルに綴じ、常時閲覧できるようにしている。また、受診により薬の内容が変わった場合は、申し送りにより職員へ周知している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の趣味や生活歴を把握することで、各々が好むと思われるものを随時提供するようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出は随時行っており、近所への散歩も可能な限りサポートしている。普段と違うような外出はグループで外出する機会が多い	家族に協力していただき、外出や外泊が出来るように取り組んでいる。利用者の希望に応じて、散歩、畑での野菜作りのための外出等、日常的な外出を支援している。また、初詣、お花見等、行事や季節に合った外出を行い、楽しんでいる。	利用者が事業所の中だけで過ごすことなく、日常的に外出できる個別の支援を工夫することが大切であることを理解のうえ、事業所として介護計画の一環として実施していくことに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族や本人の意向により本人が金銭を所持する場合は、残金確認など安全に所持できるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙については一切制限を設けておらず、自由に連絡が取れるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	備品や物品の配置に配慮し、動線の妨げになったり不快感を与えないよう心掛けている	自然環境に恵まれ、居間兼食堂からはリンゴ園が望め、季節を感じる事が出来る。採光も良く落ち着いた共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの気に入った場所があり、思いも思いに過ごしてもらえるように環境作り・支援を行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への物の持ち込みについては大きな制限は設けておらず、使い慣れた物を本人や家族の希望で持ち込んでもらっている	ベッド、収納棚が備え付けとなっている。利用者が自由に好きなものを持ち込み、絵を描く、音楽を鑑賞する等、趣味を楽しみ、居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態にあわせ、施設内備品や設備について、簡単な表示や説明を行うい、利用者に覚えてもらうことができている		